

4月7日に発出された

緊急事態宣言が緩和され、

「新しい生活」が始まる日本。

緊張が緩みつつある「日々」に

差し迫る「第2の危険」について

内閣府防災担当の武田良太大臣に

緊急インタビューを敢行しました――

特集

コロナと災害

前代未聞の「もしも」に備えて



↑ 武田大臣、平副大臣、今井政務官が出席した災害からの避難強化を検討するための中央防災会議の様子。

不安定な国内コロナ状況で
危惧される「新たな災害」

世界各国で新型コロナウイルス感染症がまん延し、日本国内でも感染者が1.6万人、死者が8百人を超えるなど、長期にわたり厳しい状況が続いた日本は、感染拡大を食い止めるため、4月7日に新型コロナウイルス感染症に関する初めての「緊急事態宣言」を発出しました。▼

全国的な外出自粛や休業要請、ソーシャルディスタンスの確保など、国民の皆さまのためまぬ努力の甲斐あって、最近では感染者数が減少に転向。なんとか絶体絶命の状況を脱したものの、いまだ感染経路が不明な感染者が発見されるなど「完全に収束した」とは言えない、とても不安定な状況にあります。そんな中、これから迎える「梅雨・出水」の季節。豪雨や台風などの、

コロナがもたらす「新たな災害」が、
「新しい日常」の陰に差し迫る――

水害が起こる可能性が高まっています。新型コロナウイルス感染症への対応が求められている現状。自然災害が発生すること起こる「複合災害」への注意が必要です。特に危惧されているのが、人の密集する避難所での「感染爆発」。緊急事態宣言の緩和で緩んだ緊張感を再度高め、これからは「起こるかもしれない複合災害」へ向けた官民双方の防災が、今の日本に求められています。

「基本的対処方針」踏まえ
政府は連携した取組を展開
そこで政府は、3つの「密」の回避など、新型コロナウイルス感染症対策の指針を定めた「基本的対処方針」を策定。今までの災害対策に方針内容を踏まえた避難所の確保や避難方法に関する留意事項を自治体に通知するなど、関係省庁が連携して取り組みを進めています。



↑ 日本赤十字社・大塚義治社長と、災害時の新型コロナウイルス感染症を防止するための意見を交わす武田大臣。

武田良太

府 閣 内
防災担当
大臣

福智町(赤池)在住の52歳。早稲田大学大学院修了後、亀井静香衆議院議員の秘書を経て、平成15年の衆議院選挙「福岡11区」で初当選。以降、6回連続で当選。現在は、国家公安委員会委員長、行政改革・国家公務員制度・国土強靱化担当、内閣府特命担当大臣(防災)を務めている。

新たな防災対策への常備が
かけがえのない命を守る――

防災は、国や地方公共団体による「公助」、地域の住民やボランティア、企業などの連携による「共助」、自ら身を守る「自助」を組み合わせた対応が重要です。今後も政府は、新型コロナウイルス感染症の状況などを踏まえつつ、関係省庁・自治体と連携しながら「複合災害」に対し、万全な対策を整えていきます。

福智町の皆さまも「自らの命は自らで守る」意識を高め、避難経路の確認や飲食物・生活必需品などの備蓄の準備、感染予防に必要なマスク・体温計の用意など、日頃から「起こるかもしれない複合災害」への備えを進めていただきたいと思います。

国家公安委員会委員長、防災担当大臣

衆議院議員 武田良太

何より大切なのは命。

笑顔で暮らす日常を取り戻すその日まで、

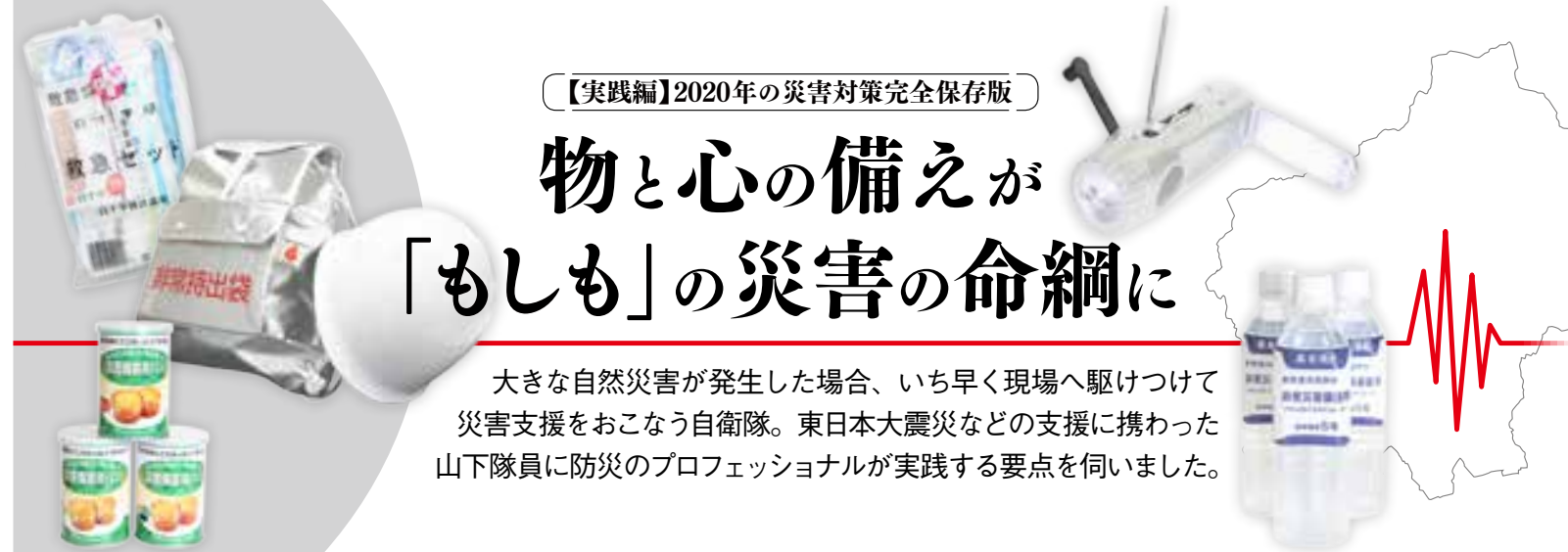
非日常の災害に備えつつ、前を向いてこの難局を共に乗り越えましょう。



↑ 気候変動に適応した防災・減災対策について、小泉環境大臣とともに国連等関係機関と協議する武田大臣。



物心両面の準備を
非常事態にいつでも対応
できるよう、自衛隊では心
と物を備える「物心両面の準
備」を常に行っています。こ
れは決して難しいことではな
く、ほとんどは私たちの生
活の中にある物で備えるこ
とが可能。災害は起きてか
らではどうしていいかわから
ず、逃げ遅れて被災するケー
スも多く、最悪の場合は「絶
命」につながります。また、
今年は避難先での新型コロナ
ウイルス感染症対策にも
注意を向けなければなりま
せん。「災害は起きないし、
町内にはコロナ患者がいな
いから大丈夫」ではなく、最悪
を想定した備えが自分の命
を守ることに繋がります。
自然災害と新型コロナウイルス
感染症、どちらの危険
からも皆さんの大切な命を
守るために、日頃から「もし
も」の災害に備えてください。



物と心の備えが「もしも」の災害の命綱に

大きな自然災害が発生した場合、いち早く現場へ駆けつけて
災害支援をおこなう自衛隊。東日本大震災などの支援に携わった
山下隊員に防災のプロフェッショナルが実践する要点を伺いました。

新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルス感染症が完
全に収束していない今時期の自宅外
避難には、感染症対策への備えが重
要。自治体で災害備蓄・感染症対策の
準備も行われますが、設置が完了する
までの間を自分たちで用意した物資で
まかなわなければなりません。基本と
される①～⑤までの備えに加え、下記
の準備もしっかりと行いましょう。また、
夏場に向けて熱中症も心配されるた
め、意識的に水分を補給してください。

CHECK LIST
☐ マスク（使い捨て・布）
→ 口元が覆える薄手のタオルでも代用可能
☐ アルコール入りのウェットティッシュ
→ アルコールが入っていない物でも代用可
☐ 消毒用品（アルコール・ジェルなど）
☐ 紙石鹸
☐ 体温計
☐ 紙コップ
☐ ペットボトルに装着可能なストロー

※リストは参考です。状況に応じて物品を用意してください。

非常用持出袋の準備で災害から命を守る

いざ、災害の危険
が身近に迫った時、生活
に必要な物を持ってすぐに
避難ができるよう生活に
必要な物を1つの袋にまと
めた「非常用持出袋」を用
意しましょう。保管場所は、
玄関やリビングなどの目
立つ場所がおすすめです。

CHECK LIST

☐ 飲料水・保存食	☐ 笛やブザー
☐ 現金(小銭多めに)	☐ タオル・着替え
☐ 銀行口座の写し	☐ 懐中電灯
☐ 車や家の予備鍵	☐ 救急セット
☐ 保険証・免許証等	☐ 保温アルミシート
☐ 印鑑	☐ 常備薬・持病薬
☐ 携帯電話・ラジオ	☐ レインコート
☐ モバイルバッテリー	☐ 携帯用トイレ

※リストは参考です。状況に応じて物品を用意してください。

※リストは参考です。状況に応じて物品を用意してください。

日常備蓄で避難・災害生活を乗りきる

災害から命を守っ
た後、ライフラインが回復
するまでの間を乗り切るた
めの日常備蓄も必要です。
1週間程度を過ごせる備
蓄を準備しておきましょう。
保存食は、普段食べ慣れ
ているカップ麺や缶詰、レト
ルト、お菓子なども有効的。

買う

食べる
(使う)

蓄える

ローリングストック法

普段の買い物で少し多めに食材を買い足して使い、使った分だけ買い足す備蓄法のこと。日常の延長で備蓄ができるので、無理なく続けることができます。

CHECK LIST

☐ 水（飲用・生活用）

☐ ライター

☐ 保存食

☐ ランタン

☐ カセットコンロ

☐ トイレトペーパー

☐ ガスボンベ

☐ 携帯用トイレ

※リストは参考です。状況に応じて物品を用意してください。

避難先と経路を家族と検討

自宅付近に災害リスクがある場合、発災時に
避難する必要があります。その時になって慌てないよ
うに日頃から「どこへ、どのように避難するのか」を家
族で話し合ひましょう。また、家族と一緒に避難先ま
で歩き、道中の危険を確認する「防災散歩」も大切です。

親戚・知人宅への避難	車空間を利用した避難
ホテル・旅館への避難	公設避難所への避難

自宅付近の災害リスクを確認

防災の第一歩目は、自宅付近の災害リスクを知る
こと。川沿いでは「水害」、傾斜地では「土砂崩れ」など、
住んでいる場所によって災害の危険性は異なり、準備す
べき内容も変わってきます。まずは、福智町の「ハザード
マップ」で自宅周辺の災害リスクを確認してください。

【福智町ハザードマップ】

福智町では、被害の実情に合わせた
より正確なハザードマップを作成し、昨
年6月号の折り込みで配布しています。
お手元には役場防災・
管理管財課で受け取るか、
町公式HPをご覧ください。



避難開始のタイミングを知る

警戒レベル	避難情報・とるべき行動
警戒レベル5	災害発生情報 すでに災害が発生している状況であり、命を守 るための最善の行動をとらなければいけない。
警戒レベル4	避難勧告 / 避難指示（緊急） 災害の可能性が極めて高く、立ち退き避難や 近隣の安全な場所などへ緊急避難が必要。
警戒レベル3	避難準備・高齢者等避難開始 避難に時間のかかる人は避難開始。身の危 険を感じた場合は、自発的に避難すること。



陸上自衛隊飯塚駐屯地 広報室長
山下 浩義さん

佐賀県出身の43歳。平成8年に自
衛隊へ入隊。北海道旭川駐屯地な
どで勤務後、現在は飯塚駐屯地で
広報を担当している。過去には、新
潟県中越沖地震や東日本大震災の
災害派遣にも参加した経験を持つ。

自衛隊の災害情報などを
発信する「飯塚駐屯地」
公式のTwitter →

Q1

災害時に連絡を取る
方法はありますか？

被災直後は電話回線の混

線などで連絡が取れな
い可能性が大。そんな場合にお
すすめの連絡方法が「災害用伝
言ダイヤル」です。震度6以上の
地震後30分を目安に設置され
る回線で、今までの大地震でも
多くの被災者が利用しました。
毎月1・15日に試験開局される
ので、家族間で試すのも一手で
す。また、家族内に高齢者が
いる場合は「集合場所・連絡方
法」などの安否確認方法を綿密
に打ち合わせておきましょう。

災害用伝言ダイヤルの 録音・再生方法

「171」にダイヤル
録音は「1」、再生は「2」を押す
相手の電話番号を押す
「1」を押す
「録音」または「再生」が始まる
「9」で終了

Q2

大雨が降った時、すぐに
避難所へ行けば安全？

避難所への避難が必ず安

全とは言い切れません。
自宅の被災状況や避難経路に
よっては危険を伴うこともある
ので、事前に災害時の行動を時
系列で計画しておきましょう。

Q3

ペットも「家族」なので
避難所に入れますか？

動物アレルギーの人が避

難所にいるかもしれないの
で、原則ペット同伴では避難所内
に入れません。しかし、避難所の
軒下などに空間を確保するなど
の対応ができる場合もあるので
避難所運営者にご相談下さい。

Q4

避難所へ避難する前に
確認することは何？

災害が原因の火災や故障

を防ぐため、水道電気
ガスの元栓・主電源を切って
避難してください。また、空き巣
被害を防止するため
施錠は確実に
しましょう。

必見

福智町防災監理官の
永末 聖峰監理官が答える

防災への疑問 Q&A

防災に取り組む中で気になる
素朴な疑問をまとめました！



「コロナ」前代未聞に備えて命を守る

福智町と協定を結ぶKBC防災担当として日々自然災害と向き合う解説委員の太田祐輔さん。「災害多発時代」と呼ばれる今、新型コロナウイルス感染症とのいまだかつて無い「複合災害」の危機についてお話を伺いました。

「コロナ」と災害に備えてり抜く



九州朝日放送㈱ 防災ネットワーク担当
KBC 太田 祐輔さん

宮崎県出身の50歳。早稲田大学卒業後、「南日本放送」の勤務を経て、平成12年に「九州朝日放送」へ入社。プロ野球実況や情報番組のアナウンサーを歴任し、現在では防災部門の「解説委員」を務めている。

1 雨の恐ろしさを痛感
私の自宅は他に比べ低い場所にあり、大雨の増・冠水には慣れていたので西日本豪雨の発生時も「そのうち水は引く」と思っていました。しかし、次第に水かさが増し、最終的に床下まで浸水。逃げ遅れた私たちは、ご近所さんの通報で消防隊に救助され、無事避難することができました。この恐ろしい豪雨の体験を忘れず、今後は早めに避難したいと思います。

西日本豪雨で被災・救出された
日高 千春さん(市場)

**到来した「災害多発時代」
3年連続で特別警報を発令**

「地球温暖化」を原因とする降水量の増加や海水温の上昇などで、年々豪雨や台風などの自然災害が多発しています。福岡県内では、実際に平成29年から3年連続で10年に1度規模の大雨が発生。平成30年の「西日本豪雨」では、福智町でも河川の氾濫や増水などで「犠牲者が出なかったことが奇跡」と言われる程の大きな被害を受けました。「事前に予想ができる」といわれる水害。しかし、最近では予報に反して「強い雨が急激・局地的に降る」などの豪雨やスコールが頻発しています。このような「災害多発時代」に直面する現代の日本では「今年は大丈夫」という確証は絶対にありません。むしろ「災害は起きる」という前提で、日頃から「もしも」に備えておくことが求められています。

**甚大災害のリアル受け止め
「自分で命を守る」意識を**

災害から命を守るために必要な要素に「自助・共助・公助」の3つがあります。私たちは「災害時は町や警察、消防が助けてくれる」と思いがちですが、実際に大規模な災害

が起きた場合「同じタイミングで複数の被害が起こる」など、同時多発的に被害が発生するケースがほとんど。その中で、警察・消防・自衛隊・自治体職員などの限られた人員で行う「公助」では、助かる見込みのある現場から救助・支援することが鉄則。救助者も命がけで対応にあたるなど、極限状態でおこなわれる「命の選択」の中で、皆さんが不運にも「選ばれなかったら」と想像してみてください。残酷な話ですが、これが甚大な災害現場のリアル。だからこそ、自分の身は自分で守る「自助」が命を守るために重要な鍵を握るのです。私たちは、この現実を真剣に受け止め、防災に取り組みいかなければなりません。

住民総出で「防災力」高めた上弁城地区防災訓練。



「コロナと災害」、前代未聞の災害から命救う絆を大切に

また今年は、例年の災害リスクに加え、新型コロナウイルス感染症のリスクも考慮する必要があります。現状で災害が発生した場合、三密回避の難しい避難所への避難は必ずしも最善策とは言えません。政府などは「ホテルや知人宅、車を活用した避難」などの新しい避難を推奨。その中でも被害を受けない知人宅への縁故避難は、手軽・気軽に実践できます。「いざ」というときに円滑な避難ができるよう日頃から身内や知人、近所のかたとのつながりを大切に

して、前代未聞の「複合災害」に備えてください。

「自助・共助・公助」について

自分の身を自分で守る「自助」、近隣や地域と協力して身を守る「共助」、国や自治体の支援を受ける「公助」の連携で防災に務める考え方のこと。

自助
70%

命を守る、
3つの「助」

共助
20%

公助
10%

集団感染防止を考慮した避難所の設営について

福智町では、新型コロナウイルスの感染拡大防止を踏まえた避難所の設営を次のとおり整備していきます。

- ▶ 避難所にサーモグラフィー(検温)カメラの設置
- ▶ 避難所内の社会的距離を意識した空間の確保
- ▶ 定期的な換気 / ▶ 広報紙・ウェブでの情報発信

詳しくは、町公式ホームページで確認するか、防災管理係へお問い合わせください。

問 役場防災管理・管財課
防災管理係 ☎22-7771



あの日から10年が過ぎ——

interview!

平成21年、豪雨による「上弁城土砂災害」が発生。1人の尊い命が奪われました。発生から10年目の昨年7月、「この災害を風化させてはいけない」と思い、実際の災害を想定した防災訓練を実施。参加した地域の住民65人と消防団員の防災意識と地域連携を強化することができました。災害時は、

この訓練の成果を生かし、誰一人として犠牲にしない避難に務めていきます。

方城1区(上弁城)区長
永末 信一さん



→今回福智町が導入した「サーモグラフィー(体温カメラ)」。開始数秒で体温が計測できる優れもの。

